

## バックアップ

### 手順

1. バックアップ情報の保存
  - 1.fstab の保存
  - 2.label の収集
  3. パーティション情報の収集 (LVM 含む j )
2. バックアップ

### バックアップ情報の保存

#### fstab の保存

```
cp /etc/fstab /mnt/backup/
```

#### label の保存

```
e2label /dev/hda > /mnt/backup/label.txt
```

#### パーティション情報の保存

```
fdisk -l /dev/hda > /mnt/backup/hda_info.txt
```

#### または

```
sfdisk -d /dev/hda > /mnt/backup/hda_info.txt  
リストア時に  
/sbin/sfdisk /dev/hda < hda.info  
で復元可
```

#### L V M情報の保存

```
pvdisplay > /mnt/backup/pv_info.txt  
または  
vgdisplay -v > /mnt/backup/pv_info.txt  
vgcfgbackup VolGroup00 -f /mnt/backup/vg_info.txt
```

### バックアップ

```
/sbin/dump -0 -h 0 -f - /dev/hda1 2>> /mnt/backup/backup.log | gzip > /mnt/backup/hda1_dump.zip
```

#### MBR のバックアップ

```
dd if=/dev/hda of=$backdata/mbr_$backtime.img bs=512 count=1
```

### リストア

#### 手順

1. パーティション復元
2. データのリストア
3. ラベル復元
- 4.MBR 復元
- 5.SELinux 用の情報を付け直し

## パーティションの復元

```
fdisk /dev/hda
```

または

```
/sbin/sfdisk /dev/hda < hda.info
```

でパーティションを作る。  
バックアップした情報から LVM を復元。

```
mke2fs -j /dev/sda1
```

などでフォーマット。  
vg 名、lv 名が同じであれば、手動で作直しても OK。  
LVM を使用している場合はアクティブにする

```
lvm lvchange -a y VolGroup00
```

## データのリストア

```
zcat /backup/hda7_0307.zip | restore -rf -
```

念のため

```
sync
```

を実行した方が良くも。

## ラベルの復元

```
e2label /dev/hda1 ラベル名
```

## スワップ領域

```
mkswap /dev/hda2
```

ラベルを付ける場合

```
mkswap -L ラベル /dev/hda2
```

## MBR 復元

```
dd if=mbr.img of=/dev/hda bs=446 count=1
```

起動しない場合は  
grub の再インストール

```
mount /dev/VolGroup00/LogVol100 /mnt/root
mount /dev/hda1 /mnt/root/boot
mount --bind /dev /mnt/root/dev
chroot /mnt/root
```

```
mknod /dev/hda b 3 0 #chroot 後に /dev/hda を作成 (特殊ファイル)
mknod /dev/hda1 b 3 1 #chroot 後に /dev/hda1 を作成 (特殊ファイル)
```

または、  
mount /dev /mnt/root/dev でも可能かも？

```
grub-install /dev/hda
```

## SELinux を使う場合

SELinux を無効にする

```
/etc/sysconfig/selinux
```

の

```
SELINUX=enforcing
```

を

```
SELINUX=disabled
```

に変更。

起動後、root でログインし

```
fixfiles relabel
```

または、grub 選択時に e で起動オプションに

```
selinux=0 1
```

を追加して、SELinux を一時的にオフ & シングルモードで起動して

```
fixfiles relabel
```

## dump の除外について

<http://www.walbrix.com/jp/blog/2008-12-dumpxfsdump.html>

d 属性がついているファイルやディレクトリは dump や xfsdump によるダンプ時に除外することが出来る。

ファイルに d 属性を付けるには、

```
chattr +d ファイル名
```

とする。

xfsdump の場合は -e オプション指定時、dump の場合はインクリメンタルバックアップ時又は -h 0 オプションの指定時に d 属性のファイルがスキップされる。

下記は、ホームディレクトリ以下で 100MB 以上の大きさのファイルはバックアップ対象外にする例。

```
find /home -size +100M -exec chattr +d {} \;
```